



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と  
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

## 東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、  
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第10号

2021年6月23日

編集 緒方 なな  
東浦町教育委員会  
SPコーディネーター

### 生路小学校 補充学習会

6月16日、生路小学校で補充学習会が開催されました。この時期、教育実習や教員採用試験の直前でSPさんたちは大忙しの時期です。そんな中、鈴木華SPが単身で参加してくれました。遠方から雨の中、来てくれました。鈴木SPは現在大学2年生。授業が忙しいと話していましたが、昨年度のわくわく算数教室や東浦中学校のテスト前学習会を経験し、「勉強になるから」と参加を決めてくれました。ありがとうございました。

この日は、6年生を対象とした教室に入っていました。児童2人に対し、先生1人というとても手厚い学習会でした。鈴木SPもその「先生の一人」として加わってくれました。最初は緊張した雰囲気でしたが、さすが鈴木SP。学習会が始まり、いざ子どもの前に座ると、すぐに集中して算数の勉強の支援をしていました。子どもの目を見ながら、表情を見ながら、「分かってないかな？」と思ったらすぐに考え始めていました。なんとか「子どもが分かるように」と、一生懸命子どもと一緒に考えてくれました。子どものひらめいた瞬間の「ピコン！」とした顔を見て、鈴木SPも嬉しそうな笑顔を浮かべていました。素敵だなあ……と思いました。

鈴木SPは、活動記録にこんなことを書いてくれました。「今回は小学校6年生の算数の学習会でした。『時計の分数』『倍数と約数』の説明をしました。自分にとっての当たり前を教えることの難しさを痛感しました。どこまでヒントを言えば良いか、どのような言葉を選んで説明すれば良いかを考えました。なかなか上手にできなかつたので、簡単に、分かりやすく説明できるようにしていきたいです。」この「自分にとっての当たり前を教えること」が小学校では特に多いかと思います。これ、すごく難しいですね。私も娘（現在小2）の宿題を見ていて痛感しています。この「当たり前のことを教える難しさ」を知っているかどうか、今後の教員人生に大きく影響してくる気がします。教育の仕事は、全て繋がっています。自分の目指す校種とは違う校種を大学時代に見ておくと、その“繋がり”を感じられるのではないかと思います。シニアSP（卒業生）も、「幅が広がった」「違う校種を見ておいてよかった」「SPでの経験が今の自分に繋がっている」と話しています。

今回鈴木SPが感じた「難しさ」は、実際に子どもと関わらなければ見えてこない事、感じられない事です。これが現場感覚です。鈴木SPは「夏休みにも、東浦町のSP活動に参加したいです！」と話してくれました。また会えるのを楽しみにしています。よろしくお祈りします。

